

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2012.12 第21号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：廣瀬慶寛）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術者協議会研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成24年度総会ならびに研修会の報告

平成24年(2012)7月27日(金)、三重県桑名市の桑名市市民会館において、文化庁、三重県、桑名市より来賓を迎え、本協議会の総会を開催しました。その概要をご報告いたします。

まず、桑名市の水谷元市長より、歓迎のご挨拶をいただき、文化庁記念物課の本中眞主任文化財調査官、三重県教育委員会社会教育・文化財保護課の野原宏司課長よりご挨拶をいただき、引き続いて、総会資料に従い議事が進められ、先に平成23年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて平成24年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

総会に引き続き、教養研修が行なわれました。

最初に、本中文化財主任調査官より、「名勝の保護」と題して、近年の文化財保護行政では、近代の庭園・公園の保護に関する研究を行っており、その成果も指定・登録に結びついていること、文化的に特色のある地域の自然名勝の調査・研究、東日本大震災による被災地の復興と文化財保護のあり方をまとめた総合的な計画の作成にも取り組んでいることなどをご解説いただき、人々が慈しみ、親しんできた地域の風土や景観を改めて確認・保全していくことも文化財保護行政に課せられた使命となっているとのお話をいただきました。

続いて、桑名市教育委員会文化課の水谷芳春主査より、「桑名市の諸戸氏縁の文化財について」と題して、諸戸清六（初代）とその子の精太、清吾（2代目清六）を中心にした、諸戸家の発展と地域への貢献、諸戸家の邸宅や庭園の歴史や現況などについてご解説いただきました。

教養研修を終え、諸戸清吾の邸宅であった名勝旧諸戸家庭園（六華苑）と、諸戸清六（初代）と精太の邸宅であった名勝諸戸家庭園において実地技能研修が行われました。名勝旧諸戸家庭園（六華苑）については、水谷芳春主査に概要をご説明いただきながら、尼崎博正評議会員に庭園についてご解説いただき、また、名勝諸戸家庭園では、(公財)諸戸財団の諸戸公子氏に、諸戸家での様々な出来事をお話しいただいて後、庭園内の各所で尼崎評議会員や、本協議会の賛助会員で事務局次長でもある(株)環境事業計画研究所の吉村龍二所長より、修理中の御殿について、また、園内の水敲亭（すいこうてい）を中心とした庭園の情景についてのご解説いただきながら、庭園を実地に視察しました。

翌7月27日(土)と翌々日の28日(日)、三重県桑名市の諸戸徳成邸にて実地技能研修が行われ、尼崎博正・龍居竹之介・田中哲雄・中村一・丸山宏各評議会員の監修のもと、植栽の管理を行いました。



教養研修（桑名市市民会館）



実地技能研修の様子（名勝諸戸氏庭園）

諸戸徳成邸は、諸戸清吾の邸宅で、大正末から昭和初期に完成しましたが、旧諸戸家庭園（六華苑）を公的な場所として利用したのに対し、徳成邸は私的な住まいとして利用されたものと考えられます。台地上に建てられた邸宅には、旧諸戸家庭園（六華苑）のような、近代的な庭園の様相と対照的に、従来日本風の庭園の意匠をベースにした庭園となっており、茶室も設けられています。

しかし、近年は樹木の伸張などが著しく、庭園内を見通すことも難しくなり、往時の様相が失われつつあったため、低木の刈り込みや、高木の強剪定、流れの清掃などの作業を行いました。

廣瀬慶寛代表や実技技能研修委員でもある加藤末男正会員の実技指導のもと、5名の評議員に加え、文化庁記念物課の本中眞主任文化財調査官・中島義晴文化財調査官、国立文化財機構 奈良文化財研究所の平澤毅遺跡整備研究室長・青木達司研究員（以下も含め、役職は研修当時のものです。）の監修の元で行い、2日目には枯れていた茶室前の流れに水を流して、往時の情景の復元も試みました。研修終了時には各評議員、中島文化財調査官、平澤遺跡整備研究室長・青木研究員に講評いただき、3日間の研修を終了しました。

研修中、会場の利用や資料提供に便宜を図っていただいた桑名市教育委員会、器材の提供などをいただいた植彌加藤造園(株)と(株)三重造園など、関係者の方々には本当にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



実技技能研修の様子(諸戸徳成邸、上下とも)



庭園学講座17開催される

本協議会では、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座19「日本庭園の不易と流行」を特別教養研修と位置付け、会員の方に開講のご案内をさせていただきましたところ、今回も多くの方に参加いただきました。その概要をご報告いたします。

講座は、平成24年(2012)8月31日(金)から9月2日(日)の3日間開催されました。

1日目は、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長より、「日本庭園の不易と流行」と題して、作庭記の記述などをもとに、夢窓疎石、小堀遠州、7代目小川治兵衛(植治)の作庭手法や構想などについてのご講義から始まりました。続いて、京都造形芸術大学の中村利則教授より、「古田織部と上田宗箇」と題して、古田織部の構想がもたらした茶室の間取りの変遷についてご講義いただきました。

午後は、現地研修として、(西)本願寺の大書院庭園(虎溪の庭)と滴翠園を見学しました。特に滴翠園については、近年の整備の成果などについてもご解説いただきながら見学を行いました。

2日目は、午前中の現地見学から始まりました。まず、夢窓疎石作庭として名高い天龍寺を見学した後、天龍寺の塔頭である宝蔵院を見学しました。宝蔵院は江戸時代は天龍寺塔頭の妙智院の境内で、その庭園の美しさは『都林泉名勝図会』などにも紹介されましたが、明治に入って民有地となり、個人の邸宅として新たに建物や庭園が作られたものを、近年、天龍寺が買い入れられ、塔頭宝蔵院として整備されました。両庭園については、長く天龍寺の庭園の管理に携わっておられる(株)曾根造園の平木信行準会員に、管理のご苦労や近年の様子などについてご説明いただきました。

午後は、現地研修会場近くの会場で講義が行われました。京都大学大学院人間・環境学研究科の中嶋節子准教授の「近代における嵐山・嵯峨野の歴史的環境と再整備とその展開」に続いて、本協議会の事務局長補佐で、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター日本庭園部門長の仲隆裕教

授の「嵯峨の庭園」のご講義がありました。嵐山地域の近代になってからの変化についてご解説いただいた後、再び現地見学を行い、亀山公園や大河内山荘を見学しました。

3日目は、京都造形芸術大学での講義から始まりました。本協議会の賛助会員で事務局次長でもある(株)環境事業計画研究所の吉村龍二所長より、「文化財庭園の修復と管理」と題して、智積院庭園を中心に近年の文化財庭園の保存修理の考え方や手法、保存修理の経緯などのご解説に続き、(株)岡墨光堂の岡岩太郎会長より、「装潢の歴史と文化財修理の考え方」と題して、同じ文化財保存修理技術としての装潢について、その歴史や近年の動向などをご解説いただきました。最後に、仲教授より、「自然への憧憬と庭園」と題して、昔は自然景観をどうとらえ、どう表現していたかなどを、和歌や庭園から読み解いた結果についてご解説いただきました。

午後は、現地見学として、智積院庭園を見学した後、境内の智積院会館にて、対談「技術の伝承と創造『庭園の美—その保護のために』」が行なわれました。尼崎所長が司会を務め、本協議会の正会員である加藤末男・徳村盛市両氏に、近年お2人が取り組んでおられる、智積院の整備や毛越寺の保存修理事業に関して、以前と近年の整備の違いや、整備や修理に携わって感じることなどについて、いろいろとお話いただきました。全ての日程を終えた後、最後に尼崎博正所長より修了証書の授与と閉講のご挨拶をいただき、3日間の講座を終了しました。

文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2012～文化財を支える『伝統の名匠』～」開催

平成24年10月13日(土)・14日(日)、兵庫県姫路市のイーグレ姫路と大手前公園において、文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2012～文化財を支える『伝統の名匠』～」が開催されました。

当日は選定保存技術保存団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告があり、本協議会も設立趣旨や研修の様子などのパネル展示を行いました。

今回は、従前よりのパネル展示、醍醐寺三宝院庭園の植栽管理などの様子を録画・編集したビデオの放映に加え、庭園構造物の製作実演を行うこととし、樋口造園(株)の吉野裕仁準会員、百田誠準会員補、福田直男研修会員、齋藤貴吉研修会員の4人による、慈照寺(銀閣寺)庭園内の向月台の縮小を製作いただきました。砂というただ1種類の素材だけで向月台ができていく様子は、他の保存団体の方も興味津々で、慈照寺(銀閣寺)での管理のことなど、様々な質問が浴びせられましたが、4人の会員は作業をしながらも丁寧にご説明されたので、好評を博



向月台の製作風景

しました。樋口造園(株)の4人の会員の方々ならびに急なお願いにもかかわらず向月台の製作実演にご許可いただきました宗教法人慈照寺の皆様がこの場を借りて厚く御礼申しあげます。

なお、シンポジウム期間内、選定保存技術保存団体の連合体である全国文化財保存技術連合会の総会も開催され、連合会の平成25年度事業計画の審議が行われました。

平成24年度 特別技能研修京都で開催される

特別技能研修は、後継者育成事業として研修会員や準会員補を対象に評議会員の監修のもと、正・準会員の指導で技術の向上を図る研修として開催しています。今年度は平成24年12月7日(金)・8日(日)、尼崎博正評議会員の監修、実技技能研修委員でもある加藤末男正会員の指導にて行われました。その概要をご報告致します。

7日は、尼崎評議会員から、庭園の歴史の概要をご解説いただいた後、園内を一巡するところから始まりました。現在は琵琶湖疏水から引かれた本願寺水道によってまかなわれている池の水も、かつては、東に流れる高瀬川から取水していたことなどもご説明いただき、かつての水路の跡の現状などを確認した後、作業に入りました。今回は、恒例の植栽管理から離れ、落葉などが堆積し、かつての状況が想像しにくくなりつつある水路跡を探索することとなりました。

探索といっても、現地には水路の窪みが明瞭に残っており、堆積した落葉や落葉が腐った土を慎重にめくっていくものでした。多くは素掘りの溝でしたが、暗渠として水を潜らす手前には石で組んだ構造物もあり、そこからは樋の板を入れていた跡も確認されました。



特別技能研修の様子（渉成園）



最初はどちらかというところという感じで始まった研修も、終わりの頃には、だいぶ興のつておられる会員も多かったようでした。2日間という日程のため、水路の全部を確認することはできませんでしたが、多くの成果を確認し、尼崎評議員会の講評をいただいて研修を終了しました。

2013年の実地技能研修の開催について

新年2013年は、1月20日(日)、京都府八幡市内の石清水八幡宮を中心にして、中村一評議員のご案内による実地技能研修を開催させていただきます。詳細は別紙のご案内をご参照下さい。

また、3月19日(火)と20日(水・祝)には、東北岩手県での実地技能研修を計画しております。初日は、平泉において、東日本大震災による被災後、災害復旧事業を行っている毛越寺などを、2日目は宮古市まで足を延ばし、盛合氏庭園などを見学する予定で計画中です。初日19日は平泉に午前中集合となりますが、行き帰りの交通手段や前日18日などの宿泊の手配は各自でお願いいたします(19日の宿泊のみ、事務局で一括して手配します)。詳細は新年に改めてご案内させていただきます。年度末でお忙しいかとは思いますが、ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

『遺跡学研究9』発行のご紹介

昨年11月、福井県大野市の南専寺での実地研修の後、福井市内で日本遺跡学会と合同で文化財庭園フォーラムを開催しましたが、このたび、同学会から、フォーラムの報告を掲載した『遺跡学研究9』が発行されました(頒布価格3,800円+送料80円)。当日の先生方のシンポジウムの発言などとともに、奈良文化財研究所の平澤毅遺跡整備研究室長の書かれた、7月の桑名研修の様子のコラムも載せられています。ご希望の方は以下の宛先に直接お尋ね・お申し込みください。

日本遺跡学会事務局 〒630-8577 奈良県奈良市二条町2-9-1 奈良文化財研究所内
(tel:0742-30-6816、mail:iseki-g@nabunken.go.jp)

(編) あれこれしている間にあっという間に年末になってしまいましたが、まずはお詫びから。協議会に入会をお申し込みいただいている方々、入会手続きが遅くなっており申し訳ありません。会員区分を決める作業が遅れているのですが、入会そのものは認められていますのでご安心下さい。

また、今年度末は、皆さんの登録情報を更新する時期に当たります。改めて現時点での登録情報をお送りしますので、修正の上、ご返答下さいますようお願いいたします。会員区分の変更にもかかわりますので、必ずご返事下さいますようお願いいたします。

本年度はあと2回の研修を予定しています。1月の研修は1日のみですが、中村先生のお話しがうかがえる貴重な機会ですので、こちらもふるってご参加下さい。

最後になりますが、皆様、よいお年をお迎え下さい。